建設業関連業界団体

新年ご挨拶

一般社団法人 長崎県建築士会
会長 中野 善弘

新年あけましておめでとうございます。昨年も長崎県建築士会の活動にご理解・ご協力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

昭和25年に建築基準法及び建築士法が公布・施行され、75年以上の長きにわたり、時代の要請に応じて幾度となく改正が行われてきました。近年は大きな改正が立て続けに施行され、建築士の業務はその対応に翻弄され続けています。

昨年4月から建築物基準法・建築物省エネ法が改正され、4号特例建築物の廃止と原則全ての建築物を対象に省エネ基準への適合義務化が始まりました。この省エネ基準は2030年以降に新築される住宅については、段階的にZEHやZEB水準にまで引き上げが予定されています。「日本の家屋」といわれるような省エネ基準の仕様に対応できない伝統工法の住宅に対する基準適応の緩和策として、建築士会は「長崎型気候風土適応住宅」制度設立に深くかかわり、運用のためのガイドラインを作成しました。この制度の運用を通して地域の気候風土に応じた建築が、また建築技術や文化が継承されていくことに期待しています。

長崎県建築士会は長崎市から景観法92条に基づく「景観整備機構」の指定を受け、良好な景観形成を担う主体として位置づけられており、美しい街並みを創ることを目的とする活動は、地域の公園整備のための協議会などへの参画や未来を担う子供達に対する景観教育のため小学校での出張授業などとして続けられています。このような会員による社会貢献活動に加え、いつ起こるかもわからない自然災害に対する支援活動のための備え、歴史的建造物の保存と活用を積極的に進めていくためのヘリテージマネージャーの養成等、数多くの事業を行っています。私たち建築士会は県民の安全・安心を支えるため自己研鑽を重ねつつ、建築技術者の団体として社会的使命と役割を果たして行きます。

今年も建築士会活動へのご協力をお願い申し上げますと共に、今年一年が皆様にとって実り多き一年でありますようご祈念申し上げます。

建築・都市と人間の未来を考えるJIA

公益社団法人 日本建築家協会九州支部長崎地域会
長崎地域会長 松本 隆之

新年にあたり、心新たに輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

企画・建設に約6年間を費やした複合施設「長崎スタジアムシティ」が長崎のまちに開業して1年が経過しました。建築士会・建築士事務所協会・建築家協会では、これを記念して、設計者の仙田満氏を長崎にお招きして講演会を開催しました。

演題を「感動を喚起する空間を設計する—遊環構造デザインの60年」と題し、子供の遊び空間研究に着想を得た建築・都市構造実践から最新作であるスタジアムシティまでの変遷をお話頂きました。いち早く環境デザイン領域という概念を、建築と都市デザインに取り入れ、全国各地で様々な公共建築を手掛けられた同氏の著書「遊環構造デザイン」において、私は「困難を乗り越え、生活を楽しむ環境デザイン」という言葉に感銘を受けました。

目標来場者数2500万人を超える2900万人を動員し、大盛況のうちに閉幕した「大阪・関西万博」では、建築都市の明るい未来を描き、多くの来場者が希望を抱いた一方で、気候変動・災害激甚化・アフターコロナ変容・AI社会到来など様々な社会問題が現実として重くのしかかっています。我々建築家には、これらの困難から目を背けることなく、どのようにすれば人間らしく生きられる空間を創ることができるのかを考え続ける責務があります。

現在わが国では、約37万人の一級建築士が活躍しておりますが、このうちJIA正会員は約5千人足らずです。コロナ渦経験による価値転換やAIテクノロジーの進化により、建築や都市のリアルな空間体験や、我々が現在行っている創造的な仕事の存在意義は脅かされつつあります。JIAではこのような時代の変化に追随すべく、多岐に渡る社会貢献活動を行う中で、未来に必要とされる職能像と可能性を探っています。

人々がそれぞれの生活を楽しみ、いきいきとした社会活動を営むことのできる環境構築に寄与できるよう、個々の会員が研鑽を重ねて参る所存でございますので、本年もご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

建設業界の発展を目指して

一般社団法人 長崎県建築士事務所協会
会長 木場 耕志

新年あけましておめでとうございます。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナ紛争は未だに収束しません。またトランプ大統領による関税政策で各国が振り回されています。日本では女性初の高市総理大臣が誕生しました。日本をぜひ豊かな国へと導いていただければ幸いです。

当会は建築基準法、建築物省エネ法が昨年4月改正に伴い、周知徹底すべく幾度となく講習会を開催しております。また本年度も「長崎県産材サプライチェーン構築支援業務委託」を長崎県より受注し、建築主、建築士、施工者対象のセミナー、木造・木質化をアドバイスできる建築士の養成講習会を進めております。

長崎市は長崎駅及び周辺の整備がほぼ完了、長崎県庁、長崎市庁舎の完成、西九州新幹線の開通、そして長崎スタジアムシティの完成により一段落しました。県外の方から、長崎は変わった、魅力的な街になったとよく聞きます。インバウンドを含め多くの観光客が訪れています。

しかしながら建設業界は、急激な円安による燃料や建設資材の高騰、人口減少、特に若者の流出には歯止めがかかりません。これを打開するためには給与体系の見直し、週休2日制を前提とした長時間労働の解消、福利厚生の充実等見直しが必要です。そして何より若者が魅力ある建設業界であると感じられるようにならなければと考えます。

今後とも一般社団法人としての社会貢献活動を始め、SDGsにおけるさまざまな研究を建築の専門団体として進めていきたいと考えます。

最後に皆様のますますの発展とご健勝、ご多幸を祈念致しまして新年の挨拶とさせていただきます。